

2009年(平成21)3月

カルメル  
**霊性センターニュース**



**241号**

# DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——

## 第一卷

### 第11章 内的な平安を得る方法と靈的進歩への熱意

#### 1 潜心する

もし私たちが、他人の言葉やおこない、また自分にかかわりないことに気をつかわないなら、私たちは大いなる平和を得るであろう。

他人の問題にかかわり合い、外部からの気晴らしを求め、自分の内部に潜心することがごくまれか、あるいはごく少ない人が、どうして長く平和に生きられるであろう？単純な人々は幸いである、彼らは、豊かに平和を受けるからである！

#### 2 内的自由

どうしてある聖人たちは、あれほど完全になり、あれほど観想に集中することができたのであろうか？彼らは地上的な望みをまったく抑えようと努めたからである。そして彼らは心を尽くして神と一致し、自分の内心のことに自由にたずさわることができたのである。

私たちは自分の欲望にあまりにも強く縛られ、世俗のはかない事柄にあまりにも気をつかいすぎる。私たちは、一つの悪にさえなかなか打ち勝てない。日々完徳に進もうという確かな決心がないので、いつも冷ややかで、生ぬるい。

#### 3 大きなさまたげ

もし私たちが自分自身をまったく脱ぎ捨て、内部的などんな束縛も切り捨ててならば、その時には神のこともいくらか理解でき、神の観想を味わうこともできるであろう。

唯一最大のさまたげは、私たちが欲望と世俗的な望みから脱しきれず、聖人たちの完全な道に入ろうとまったく努力しないことである。わずかな障害にあっただけで、私たちはあまりにもろく落胆し、人間からの慰めを求めてしまう

心の泉





## 聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd - 3 -

神は

わたしたちが働いた分だけ 報いてくださると  
わたしたちはおもいがちです

そんなことはありません

テレーズは すばらしいことを言っています

「神さまは計算がおできにならない」



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

神さまは公正な方なので、わたしたちに働きに応じて報いてくださると期待するかもしれませんが、わたしの善い行いに報いてくださる神さまに何も差し出すものがないのです。神さまと親しく生きようと望み努力しても、日々の生活の中でなかなか上手くゆきません。神さまに報いていただくようなことをしていません。それでも神へ向かう道を歩み続けるのでしょうか。

マリー・エウジェンヌ神父はテレーズのメッセージを紹介します。「神さまは計算がおできにならない」。

ある日、「自分が繰り返す不忠実は神の怒りをかっているのではないか」とテレーズに一人の修練者は打ち明けました。その時「神さまは計算がおできになれない」とテレーズは答えたのです。神さまはあまりにもわたしたちを愛しておられるので度重なる不忠実に関わらず、神の愛に立ち戻るなら、「すべての罪、注いだすべての恵みに反する不忠実を、無に帰してくださり、いそいで慈しみの愛のみ腕で受け止めてくださる」。この慈しみの愛に対するテレーズの確信を神父は強調します、

テレーズが光を当てた秘密は、「弱さを利用すること」でした。

「弱さを利用する」とはどういうことでしょうか。大切なのは、わたしたちの成し遂げた業によって報われることではなく、たとえ失敗しても不忠実であっても、その自分の弱さ・貧しさを受け入れ、神の慈しみの愛を信じ信頼することです。愛である神はご自分の愛を与えないではいられないから。それゆえテレーズは生涯の終わりに、「自分の業を数えてくださいとは願いません、わたしはからの手で主のみ前に立つことでしょう」と言っていました。そのからの手に神は慈しみの愛をあふれるほどに注がれたのです。これがテレーズの秘密、「小さい道」です。

わたしたち一人ひとりに注がれている神のこの慈しみにみちたまなざしを見据えて、日々の平凡な生活を希望とよるこびのうちに生きてゆきたいものです。

伊従 信子  
ノートルダム・ド・ヴィ

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(44)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

このリラックスの訓練は、静けさと安らぎに大いに役立ちます。これは、旅行中でも祈りの時でも勉強中でも読書の時でも、いつでもどこでも行うことができます。この訓練は、集中力を養ってくれます。

食物の味覚を楽しむことから、貪食や酩酊、怒りや不和、隣人や貧しい人に対する愛の欠如ということがすぐに生まれてくる。それはちょうど、ラザロに対して無慈悲でありながら、自分自身は日々豪華な生活をしていたあの金持ちのようなものである(ルカ 16:19)。そこから身体の具合が悪くなり、病弱になり、欲情の刺激が増すため、よこしまな心の動きが生じてくる。またさらに精神がきわめて鈍感になり、霊的なことに対する欲求がおさえられてしまうため、そうしたものを味わうことも、それに心をとめることも、また問題にすることもできなくなってしまうのである。またこの楽しみからは、その他の感覚や心が散漫となり、すべてのことに不満が生ずる。(『登攀』 3, 25, 4)

### 第 11 章 「イエスは彼らに息を吹きかけられた」(ヨハ 20:22)

ある時、私はひどい風邪にかかりました。その日々には、祈ったり働いたりしようとする私の高貴な望みは、すっかり影をひそめてしまいました。鼻や肺の感覚がブロックされ、止められていたため、私はほとんど喘ぎながら息をし、不安が私を襲いました。感覚が何も働きませんでした。あらゆるタイプの薬も役に立ちませんでした。私の状態を見ながら、当時、私に会った人々は皆、この風邪を治すためさまざまなタイプの薬を私に勧めました。この風邪から回復するためにきっかり八日間かかりました。私が自由に呼吸を始めた時、私は自分の肺の中に天国を感じ、自分の仕事をすることに完全に没頭しました。

息をすることと嗅覚は、鼻とつながっています。鼻は、呼吸気管の入り口として際立った役割をになっています。それは嗅覚の器官でもあります。それは、呼吸のために空気を供給し、臭いを感知し、空気をフィルターしたり、暖めたり、湿らせたりして調節し、空気を吸入された微量のほこりや化学物質から浄化します。

鼻や肺や呼吸器官に注意してゆくことは、呼吸を正しいものにし、毎回吸ったり吐いたりすることを味わえるようにしてくれます。呼吸への意識の集中は、緊張をほぐし、私たちの態度を落ち着かせます。嗅覚は、快いにおいと不快な臭いを区別することができます。これに加え、嗅覚は、私たちがその場所や状況のムードや雰囲気の中へ入ってゆくことを助けてくれます。たとえば、私たちが庭園に入ると、すぐにさまざまな花の香りを感知します。どのタイプの花がより匂っているかをたぶん区別することはできないでしょうが、自分をとてもリラックスさせ、楽しい雰囲気にしてあげていることを感じることができます。

さまざまなタイプの匂いがあります。香水や芳香は私たちがいつも引きつけます。腐敗や湿った匂いは、不快な感覚を引き起こします。匂いの程度も、異なります。軽い香りの芳香や香水は、私たちが和ませます。その効果を私たちは楽しみます。強い香水や芳香は、特別に長続きし、楽しい効果をもっているわけではありません。

私たちが甘く匂う特別の対象に慣れると、その感覚は、二三日間、続くことがあります。その期間を過ぎると、その強度は薄れ、余りにもその匂い慣れてしまい、その匂いを感じることはできなくなります。

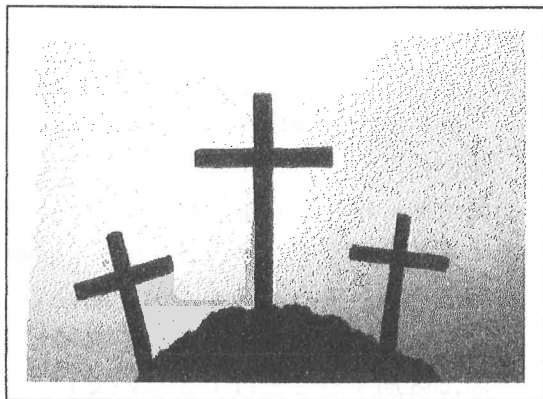
動物は匂いにとっても鋭く敏感です。それによって、彼らはほしいものを手に入れることができるのです。動物は、他の動物や人間の存在をただちに感じるすることができます。なぜなら、彼らは嗅覚をその存在全体と非常によく統合しているからです。これは、私たちが動物における本能と呼んでいるものです。

匂いの感覚は、私たちの祈りと遠い関係があります。子供の時、私たちは、祈るために聖堂や教会へ連れて行かれました。ろうそくに火がとまり、御像や御絵に花が供えられていました。そのような場所や状況に特に注意することなく、ある感覚が私たちの記憶の中に保存されたのです。それゆえ後になって、私たちが教会や礼拝の場に行くと、自動的に御絵や御像に自動的に引きつけられるのです。その魅力は、普通、聖人や御像に対する崇敬の感覚を呼び覚ますろうそくや花やその周りのさまざまな物の匂いと結びついています。あるタイプの匂いを、ある人や場所に結びつけているということは、本当です。たとえば、誰かがある種の香水をプレゼントしてくれたなら、私たちはその香水を使う時は、自然にその人のことを思い出すのです。匂いは、状況や出来事を思い出すために、途方もない力を持っているのです。それは祈りの一部であり、諸聖人や聖なる人々と結びついているのです。

(九里 彰訳)

## ヘンリ・ナーウエンの

### 旅路の糧 (119)



#### 苦しみ（受難）へと引き渡されること

共に親しく生活している人々が、おたがい大きな悲しみの原因となることがあります。イエスが12使徒を選んだ時、ユダも使徒の一人でした。ユダは裏切り者と呼ばれています。裏切り者とは、「裏切る」というギリシャ語の文字通りの意味によれば、他の人を苦しみへと引き渡す者のことです。

本当のところ、私たちは皆、自分の内に多少裏切り者のようなところを持っているのです。なぜなら、私たち一人ひとは、たいていの場合、何気なしに、あるいはそれと知りながら、仲間の人間を、何らかの形で、どこかで苦しみに引き渡しているからです。多くの子供たちは、大人になった子供たちでさえも、両親が彼らをあまりにも保護しすぎたか、あるいはほとんど保護しなかったことに対して、深い怒りを感じるのです。私たちがしばしば、最善の意図に逆らってさえも、愛している人々を苦しみに引き渡していることをすすんで認めるならば、たいてい彼らの意志に反して私たちの苦しみの原因となっている人々を、もっと簡単に赦すことができるでしょう。

(0409)

#### 十字架のもとに立つこと

まっすぐに立つこと、頭を高くあげることは、この世界の苦難に直面した時に、霊的に成熟した人々が取る態度です。毎日の生活のさまざまな現実は、私たちを終末論的な考え方や気持ちにさせる豊かな情報源です。けれども、私たちがこの誘惑に抵抗し、私たちの霊的な背景を失うことなく、「天地は過ぎ去る」とも、イエスの言葉は決して過ぎ去らないこと（ルカ 21：33 参照）をいつも心に留めながら、自信をもってこの世において立つことは可能です。

自分の愛する子の死にもかかわらず、神の誠実さに信頼しながら十字架のもとに立っていたイエスの母である聖母マリアにならいきましょう。

(0919)

九里 彰訳



四旬節第一主日 マルコ 1, 12-15

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」(マルコ 1, 15)

この言葉が、マルコ福音書におけるイエスの第一声です。確かに、この福音を初めて手にして読み始める人にとっては、このイエスの言葉の一つ一つも、それまでの人生経験や学習によって学んだものの延長線上で理解されているでしょう。しかし、少なくともキリスト者との名前をいただいているわたしたちは、このイエスの御言葉に接するのは初めてではないはず、また、幾度もこの福音を受難、復活に至るまで読み通したはずです。ですから、わたしたちの理解が始めて読む人の理解と同じではありえないのではないですか。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」、この御言葉の一つ一つを、わたしたちはどのように把握しているのでしょうか。

「時は満ち」と言われると、どんな状況を連想しますか。刑務所に収監されていた人が、裁判で言い渡された刑期が満了して出獄する日とか、あるいは、定期預金が満期になって利子を付けて払い戻されてくる、それまでは自分の金銭であっても自由に処理はできなかったものが、自由に使うことができるようになること、と言ったところでしょうか。イエスの第一声の「時は満ち」は、むしろ、それまでは存在せず、人間の知恵や想像にも浮かばなかった新しい次元が、わたしたちの生きている変哲のない日常生活の現実の底に、神の憐れみの愛によって始められる時が来た、と告げるのです。日々の生活は同じように繰り返されて行く、しかし、その奥底では神との新しい交わり、新しい出会い、神の国を始めていただいているのです。

「悔い改めて、福音を信じなさい」。「悔い改める」、この言葉も、自分で気付く悪かったこと、罪を反省し、改悔すると言うよりも、人間の知恵、判断で見えていなかった神の新しい恵みの現実、神の国がすでに始められていることに気づき、この喜びの知らせに信頼の内に自分をゆだね切ることを指しています。日常生活でわたしたちに起こってくることは何も変わらない、わたしたちの内の起こる自然的反応も変わらないかもしれない、しかし、すべてのことの究極の鍵は、わたしの実感や反応が握っているのではなく、イエスの御言葉なのです。この鍵で、すべてのことの底に隠されている神の国に生きる喜びに入る扉が開かれるのです。わたしたちの「悔い改め」は、この「神の国」の真実な把握に向かって行くことではないですか。

ルカ 渡辺幹夫

**四旬節 第2主日 (B)**

「これはわが愛する子。彼に聞け」 (マルコ9:2-10)

本日の福音はタボール山でのイエスのご変容についてです。何を言っているのか分からないで「先生、わたくしどもがここにいるのはすばらしいことです」と叫んだときのペトロの驚きの気持ちと私たちも同じ思いを持ちます。あたかも、御父の「彼に聞け！」と言われている「囁く声」を私たちも聞いているかのようです。先週の日曜日(四旬節第1主日)私たちは、イエスが40日を過ごした「砂漠」の経験について思い起こし、人生の寂しい、実りのない砂漠について熟考し、生きている神を新たな力をもって切望しました。本日(四旬節第2日曜日)私たちは砂漠の経験にもっと深く分け入り、山の頂きでの最高の経験をより鋭く探し求めます。あらゆる言語、あらゆる文化の人々が、山の頂きに登りつめたとき、その荘厳な最高点は雲にかくれ、そのかなたには目には見ることのできない神の住まいがかくされているという強い畏敬の念と靈感を感じてきました。

変容はキリスト者にとって最高の経験です。初期の頃から、キリスト教は「砂漠と山」の靈性に価値を置いてきました。「砂漠と山」の靈性は多くの熱心なキリスト者の想像力をとらえました。この人たちは、神との一致への渇きを抱き、生活の忙しさを逃れ、孤独の場所で、静寂や沈黙、祈りの雰囲気の中で、隠遁者や修道士、修道女となりました。この奉獻的で勇気ある生活様式において、最高の経験は、キリストへの変容(ギリシヤ語:metamorphosis)への「登攀」、すなわちキリスト者の完徳という山へ登ることとみなされていました。イエスもまた、真福八端や、ご変容、オリーブ山での祈り、カルワリオ、ご昇天のときなど、砂漠と山の最高の経験をされました。山々でイエスは祈りのうちに夜を過ごされ(マタイ14:23)、シオンの山では天のイエルサレムにおける神の栄光を輝かされます(黙示21:4)。キリスト教徒は、神なる主に従いたいという望みにおいて、あらゆる年代、言語、国家の男女誰もが、苦行と靈性の学び舎を確立するために、近づきたい高みを探し求めてきました。この中心には、多かれ少なかれ隠遁者的な様々な苦行の傾向が開かれてきました。そしてある者は、近づきたい山の最高点の安心の中で、絶対的な静寂を探し求めます。しかし、究極の到達点は、過去にもまた現在にも常に同じ、神とのより親密な交わりに達したいという望みです。それは靈的変容への熱心な努力により動機づけられます。そこでは飛翔への努力と、聖霊との完全な一致に進歩したいという努力は、私たち各々にとって、靈的に現実のものとされます。

(Sr. Paulina)

四旬節第三主日 ヨハネ 2, 13-25

「イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである」  
(ヨハネ 2, 25)

わたしの心に深く切り込んでくるのは、この言葉です。わたしも、人間の一人と  
思います。わたしの心の中に何があるのでしょうか。実に、心にある真実なものは、  
自分のことでありながら、自分では分かっていない、自分の目には隠されている、  
自分の力ではすべて見通すことができないほどの深い、また、暗いものなのではな  
いでしょうか。実に、わたしたちの心、わたしたちの深い真実な姿は、わたしたち  
には、封印された手紙のよう、この封印を解くことのできる方は、イエスだけなの  
ではないでしょうか。

もう随分昔になったことを思い出します。一人のお嬢さんが、ある夜、真剣な表  
情で話し始められました。「わたしの心は、どんどん悪くなってゆきます。どうし  
たらよいでしょうか」。かいつまんだ話は、こうです。そのお嬢さんのおばあさん  
が、数ヶ月前に、脳梗塞で倒れました。この方は、おばあさんが意識不明のまま病  
院に搬入さる救急車の中でも、必死に祈りました。「神様、命だけは助けてくださ  
い。わたしが一生懸命看病しますから」。幼いときから特にかわいがってくださっ  
ていたおばあさんのために、祈り続けました。この祈りのためか、おばあさんは、  
一命は取り留め、半身不随で寝たつきりになって自宅に戻ったのです。すべてに介  
助が必要です。当初は、自分の祈りが聞き入れられたとの感謝もあり、ききとして  
看病に当たりました。しかし、段々と、自分の自由な時間もなくなり、看病を負担  
に感じるようになりました。そして、心の底からひとつの声が聞こえてきました。  
『どうして、あの時、命だけは助けてくださいと、一生懸命祈ってしまったのか。  
あのまま死んでいてくれたらよかったのに。おばあちゃんなんか、早く、死ねばい  
いんだ』。お嬢さんは、続けました、「人の死を心から望む。こんなことは、生まれ  
てはじめて、わたしの心は、どんどん悪くなります」と。

このお嬢さんにどんな言葉をかけるべきでしょうか。どんどん、悪くなるんじゃない、人間の心の底には、自分に負担になれば大切な人の死さえも望んでしまう自己中  
心への傾きが隠れている、しかし、普段は、それに気付かないだけ。この気付きを謙  
虚に受け止め、この罪人のわたしを憐れんでくださいとイエスに告白する、ここから  
すべては始まります。

ルカ渡辺幹夫

#### 四 旬 節 第 4 主 日 (B) (ヨハネ 3:14~21)

「光が世に来たのに、人々は光よりも闇の方を好んだ。」

ある夜、イエスを訪ねて来たニコデモは、卓越したファリサイ人です。‘ニコデモ’は一般のギリシャ人の名前で、人々 (demos) の征服者 (nicao) を意味します。彼はユダヤの支配階級の一人、議員であり、裕福であり、特別に優秀なイスラエルの教師でした。これらのことから彼はローマ帝国支配下の卓越した政治家であったとも考えられます。先ず、今日の福音 (ヨハネ 3-1~21) の中で、夜こっそりと、大切な話をするためにイエスの許を訪ねた人として登場します。このときイエスはニコデモに「人は新たに生まれなければ」ならないことの絶対的な必要性と、それを受け入れなければならないことを説き明かされます。

私たちの人生におけるニコデモ。今日の福音は私たちに人生の暗い反面、信頼のない、痛みと誤解に満ちたごまかしの面を考えるように促します。ニコデモとの会話で、イエスが、私たち人間が「光よりも闇の方を好んだ」(ヨハネ 3~19) と言われた悲しい現実を、自分の問題として考えなければなりません。ニコデモは勇敢な人であったのでしょうか。彼は人目を忍んで夜やって来ました。イエスと一緒にの場所を見られるのを怖れたからではなく、主の許に押し寄せる群衆を避け、主との、心ゆくまでのゆっくりした時間を得たいためでした。ニコデモは闇から光へと移って行く私たちを表しています。一方、悲惨なことに、裏切り者のユダは、光から闇、自滅へと落ちて行く (ヨハネ 13-30) 人々を表わしています。ニコデモはイエスが葬られるときに、高価な油を持ってきた人です。彼は‘ユダヤ人の王’として死刑に処された御方に光栄を帰し、イエスへの愛を表わしました。しかしこのとき彼は、私たち人類の救いのための神のご計画がどのように実現したのかをはっきり理解したわけではありませんでした。丁度、今、私たちがそのことを信じながらも驚き続けているように。ニコデモは、毎日信仰の薄い自分に出会いながら、主が行われるしるしや奇跡によって、信仰を燃え立たせていただいている私たちを表わしています。ですから、イエスがニコデモに示された悲しい現実、「光が世に来たのに、人々は光よりも闇の方を好んだ。」(ヨハネ 3~19) を私たちの教訓にしましょう。そしていつの世でも教養ある人々に、ニコデモのような挑戦をしてもらいましょう。学問のある、裕福な、支配者であり、教師であり、ファリサイ人である彼は、ユダヤ教が差し出すことができた最もよいものを持っていました。しかしそのどれもが、イエスが私たちの人生に関わり、共に歩み、時に応じて与えてくださるものに比べれば、取るに足りないものでした。

(Sr. Paulina)

四旬節第5主日 ヨハネ 12, 20-33

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12, 21)

この場面で思い出すのは、ある教会の黙想会での出会いです。その黙想会で、参加者に尋ねられました。『イエスの弟子であってよかったなと思うことがありましたか。それは、どんなときでしたでしょうか』と。しばらく祈りのうちに静かに思い起こしてくださる時間を置いて、分かち合いになりました。実は、そのグループの中に、認知症の姑の介護をされている五十代の婦人がいたのです。御自分の気持ちを話されました。

「どうして、このわたしが、姑の介護をしなければならないのか」、「神様は、なぜ、ぼけてしまった姑の介護と言う墓場にわたしを閉じ込めたのですか」、「イエス様、あなたは病人を癒されました。姑の病気を治してください。少なくともこの重荷からわたしを解放してください」、こんな言葉が、いつも心の中でむしかえされていたそうです。この婦人は、病人たちを癒し、重荷から解放する「イエスにお目にかかりたいのです」と、必死に繰り返していたのです。そんな時期にミサの福音の中で「人の子が栄光を受けるときが来た。はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」と聞いたのです。それまでも、幾度も聞いていたお言葉です、しかし、実際に、「地に落ちて死んでいる」と実感している介護の悪戦苦闘の中では、それまでなかったほどの切実さと驚きを伴って聞こえたのです。そのとき、はっと気付かされたことは、イエス様が、一粒の麦、そして地に落ちて死なれたのならば、イエス様にお目にかかりたいのであれば、きっと、自分も一粒の麦のように地に落ちて死ななければならぬのではないか。地に落ちてこそ、イエス様にお会いできるのではないか。

何とかして解放されたいと願った介護地獄の中で、イエス様にお目にかかれると期待してよいのだと気付いたのです。それは、ひとつの悟りのようであったそうです。介護地獄は、地獄のままで何も変わらない、それで良しと覚悟したのです。不思議な心の平穏さと勇気が湧いてきました。姑にじゃけんにあたり、他の人たちを恨んだり、何の実も結ばない愚痴に慰めを求めることも必要でないと思いついたときの平和。このとき、「イエス様の弟子であってよかったな」と思ったのだそうです。

ルカ渡辺幹夫

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (23)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### イエペス風ソースとサンホアン風若鶏

彼は看護師であるばかりか、料理人、それも調理法の発明者でした。グラナダで、まったく食欲がなく、ご馳走の皿から何も取らなかった一人の病人に同情し、彼にこう言いました。「さて息子よ、私はあなたのために食事を準備し、自分の手であなたにそれを食べさせたい。良く知っているソースを作ろうと思う」。彼は鳥の胸肉を焼くように命じ、その肉を持ってこさせ、少し塩を取り、皿の上にまき、少量の水でとかしました。肉をこのソースにひたし、「あなたはこのソースをよく覚えておくべきです。これでもってあなたは喜んで食べねばなりません」と言いながら、食べられるように彼自身がその手でその肉を彼に与えました。こうして、病人はそれを喜んで食べ、とてもよく理解したのです。

『歴史上の天才』で有名な著者、サン・ホセのイエロニモが、次のように言っています。

目下の病人のためには、院長の心遣いや優しい対応ほどすばらしいソースも薬もない。そのような配慮によって神はしばしば奇跡的ないやしを行うのである。

十字架のヨハネ修士の人間性と聖性は、もっとも純粋な愛のこれらすべての表現の中にあります。彼の人間性は、すでに見たように（「トレスニヨスとサクランボウ」）、上品ぶった人々の世話の仕方にも見ることができます。 (続く)





ポーランド・ヒジンカ村のイコン（18世紀）

ワインツット宮殿博物館所蔵

## …ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 20. 福者 三位一体のエリザベット (1880-1906) — その3

エリザベット・カテーは、1880年フランスのアヴォールに生まれた。軍人であった父は、彼女が7歳の時に亡くなった。妹のギットとは大変仲がよく、母は二人にとって大変親しい存在であった。7歳の時、エリザベットは修道女になりたいと友人に打ち明けている。早熟な子どもで、かんしゃくを起こしやすい性質であったが、初聖体を受けてからは、非常に穏やかになった。名ピアニストでもあり、また、中流階級であった彼女の家族は、パーティーや社交的な行事にもよく参加した。1891年に初聖体を受けたときから、彼女は「神に生涯を献げ、神の偉大な愛にいくらかなりともお返ししたい」と望むようになり、13歳のとき、貞潔の誓願を立て、イエスに身を捧げた。エリザベットの心はイエスにとらえられ、彼のことしか考えられなかった。21歳の誕生日に、家から近いディジョンのカルメル会に入会する母の許しを得ることができた。エリザベットは手紙の中で、カルメル会にいることの深い喜びを度々表している。あらゆるものが、彼女を三位一体へと導いた。彼女は、無条件に「三位であるお方」に身をささげ、神はそれをお受けになったのである。カルメル入会后間もなく、エリザベットは病気になる。胃疾患(現在では、アジソン病であったと考えられている)のため5年間苦しむこととなる。彼女の苦しみは、霊的にも身体的にも激しいものであったが、この苦しみによって彼女のイエスに対する愛と、彼にこの苦しみを捧げたいという望みは増していった。

彼女が書き残したのものの中には、聖パウロの言葉が多く見られる。自分の召命について、彼女は「花嫁であること、カルメルの花嫁であること」とは、エリヤの燃える心と聖テレジアの刺し貫かれた心を持つこと、「神のご光栄のために熱情を傾けている」がゆえに神の「まことの花嫁」であることであると語っている。福者三位一体のエリザベットは、祈りの真の深みを生きた神秘家であり、イエスを愛しぬいた愛人であり、カルメルにおいても家庭においても、姉妹たちにとって真の友人であった。彼女は自分のことを「Laudem Gloriam(栄光の賛美)」であると言っていた。1906年11月9日に帰天。最後のことは、「私は、光、愛、いのちへ行きます」であった。



福者 三位一体のエリザベット



— 祈り —

贖われた人は、今度は自分が他者を贖わなければなりません。そのゆえに、豎琴に合せて歌うのです。「私はイエス・キリストの十字架を誇りとし」、「キリストと共に、十字架に釘付けられています……」と。そして、「私は、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています」と。

「女王は、あなたの右側に立った」。この靈魂の態度は、このような態度です。彼女は、十字架に釘付けられ、無に掃され、辱められている王様の右側に立ち、カルワリオへの道を歩きます。王様は、聖パウロの力強い表現によれば、「輝かしい恵みを私たちがたたえるようになるため」、ご受難に向かわれるときにも、いつも、力強く、落ち着いて、王者の威厳に満ちておられます。王様は、ご自分の花嫁を、贖いのみ業に参与させたいと望んでおられるのです。そして、花嫁の歩むこの悲しみに満ちた道は、至福の道のように、彼女には思われます。それは、その道が至福へと導く道であるからというだけではありません。聖主は、ご自身そうなさったように、至福のうちに安らぎを見出すためには、苦い苦しみを越えていかなければならないということ、花嫁に理解させてくださるからでもあります。

ですから、彼女は「主の神殿で昼も夜も」神にお仕えすることができます。どのような内外の試練も、彼女を聖なる要塞から引き離すことはできません。その中に、主が彼女を閉じ込めてくださったのですから。彼女は、もはや「飢えも渇きも」感じません。というのは、至福に対する焼き尽くすような望みにもかかわらず、主が糧とされた「御父のみ旨」という糧で満たされているからです。「彼女は、もはや太陽の熱を感じません」。なぜなら、彼女は、もはや苦しみによっては苦しまないからです。ですから、小羊は、お望みのままに「彼女を命の泉へと導く」ことがおできになります。彼女は、自分が歩いている道を見ることなく、ただ、自分を導いてくださる羊飼いだけを見つめるからです。神は、愛をこめて、この靈魂の上に身をおかがめになります。神の養女とされたこの靈魂は、「すべての被造物の初穂」である御子の似姿に合わせられているので、神は、彼女を、「あらかじめ予定された者、招かれ、義とされた者」の一人として、お認めになることができます。そして、神の父親のような御心は、そのみ業の完成を考えて、喜びに震えるのです。そのみわざとは、彼女をその御国にお連れになることによって、彼女を「栄光化」することです。その御国で、彼女は「栄光の賛美」を尽きることなく、とこしえに歌うことになるでしょう。

(『最後の黙想』、5日目)

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(赤阜カルメル会訳・編)

## 曇り のち 晴れ

雨上がりの空を眺めていますと、今まで雨を降らせた黒色を含んだ厚い雨雲が、丁度ま綿を引き伸ばしたように薄く広がり、そのかげから懐かしい青空が次第に顔を覗かせてきます。お天気の時に見馴れた青空なのですが、あらためて“きれいだな”と思い、“よかった！！”とホッとすると同時に、私の心の中にも光がさしてきたように力と元気がよみがえってくるものです。この頃私は、“人の心”の中も、丁度この太陽や雲のように、時々（あるいは始終かも）動くのだと思うようになってきました。私たちは、自己診断がよく出来ないの、自分で気付き、表現しないかも知れませんが、無意識のうちに、この心の太陽の動きと雲の関係を表（おもて）に出してしまいます。つまり太陽の部分が広げれば上機嫌であり、それがエネルギーとなって、おもてに“元気”や“活動的”として出てきます。いわゆる“はしゃぎ”とかいうのは、そのことだと思うのです。しかし太陽も雲に蔽われてくるならば、（他人からのマイナス的態度）先程の元気は何処へやら“クシュン”となって、エネルギーは力を失っていきます。そして以前の自分と違って、エネルギーの入らない人になってきます。つまり人間は人前で気になることがあったり自分にとって面白くない時に、どんどんエネルギーが消えていくのです。結果として、黙りこくったり、元気を失って他人との関係の中に入らなかつたり。その意味は、“外部から舞込んだ自分にとってマイナスのもの”が、ばい菌として居坐ってしまうからなのです。外部の人にイヤな感じを与えるのも当然のことですが、それよりも本人自身の胸中は、うす曇か雨雲が張り出し、気持としては意気消沈、つまりエネルギーの退散ということになってしまいます。一番イヤな思いをするのは、本人自身、それから周囲の人を巻き込むことでしょう。ですから自分の心の状態に曇りや雨を自覚したならば、何が原因だったかを探ってみたらいいと思います。例えば自分がこうしたかったのに、文句を言われたとか、動作が遅いとか……これは様々ありますので、改めて考えさせられるチャンスととった方がいいでしょう。しかしどちらにしても中心にあるのは、上位を期待しているということなのです。ですから改めて考えさせられるチャンスととった方がいいでしょう。いづれにしても中心にあるのは、比較の中の上位を期待していることです。誤解されたり、言葉と行為の攻撃も受けるかも知れません。そういえばキリストもそのようにされたのでした。人間と比較にならない“神”なのに、メッチャやられるだけやられてしまったのです。結果として、“嘆き節”で終わったのではなく、“この人たちは分からないのだからお赦し下さい”と、人間に代わっておん父に赦しを請いました。だから神は、神として見えない霊に留まるのではなく、人間界での、

人間の無知からくる攻撃を受け、殺されることも、すべて“人間の救いのご計画”の中にあつたのでした。これこそがキリストの一生であり、人間に下さった“救い”だったのでした。

ですから、私たちの人生とは、「このキリストのされた道をたどって、キリストに従うことこれだけ。」ということだと思います。つまり自分の前に展開するさまざまな模様、(つまり自然界からくるもの、人間界からくるものなど、プラスもマイナスもすべてくめて)を前に、私たちはキリストが生きられたように、自分の精魂をつくして自分の現実を誠実に生き抜くこと……

そうするとキリストが復活されたように、私も“新しい人”つまり、キリストの復活に与ることが出来るのだと思います。

“復活”の前提には、マイナスとか闇、雲などというようにイヤなものが先行し、澄んだ状態ではないのです。キリストで言えば、“受難、苦しみ”なのです。

では私たち人間は？ …………… そうです。そのために神は人間にまでなられ、“晴れ”だけの世界に君臨するのではなく“汚(けがれ)”の世界も充分体験されたのでした。その絶頂が“受難と復活！！”でした。

だったら私の生活の中の、マイナス的なもの(心の曇り)が、プラスに転向(晴れ)することは、キリストの足跡(受難と復活)をたどらなければ、単なる気分転換だけでは出来ないのです。

では私はどのように生きてらいいのでしょうか？

それは“キリストが歩かれた後に従って、自分の人生を、歩いて行くこと”なのですが、そこには必ずマイナス、曇り というハードルがでてきます。

キリストは反対者から殺されました。だったら私も、場合によっては反対者から殺されることもあるでしょう。(そんなに大げさではなくても、自分にとってイヤなこと)

それを仮に“曇り”という天気予報の言葉を借りるなら、“晴れ”に転向するには、どうしてもキリストの“受難と復活”を黙想することしかないと思います。その他は、たとえば言えば、赤ちゃんのジャラジャラ“玩具(おもちゃ)”に過ぎません。でもキリスト直結はあまりに深いことなので、時には玩具(おもちゃ)も必要でしょう……

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子

先の大相撲初場所は、横綱朝青龍の復活優勝となりましたが、国技館は連日格別の盛況で沸き立っていました。

横綱の品格がどうの、国技の品位がどうのと常にその言動が取りざたされ、遂には、もはや引退だなどと噂されていた、はみ出し横綱朝青龍と、天声人語氏の筆によれば、「安定感がまわしを締めたような白鵬」との対戦は、確かに興をさかすニュースとなり、遂に来た優勝決定戦は人々を熱狂的に昂ぶらせました。

私はどちらかという朝青龍派に席を置き、15日間の取り組みを大いに楽しんでテレビ観戦したのですが、優勝決定戦には、思わずこぶしを振り上げて大声で応援しました。「朝青龍がんばれ！」はよかったのですが、とうとう思い余って「白鵬負けろ！」と来た時には、突如わが身に打撃を感じて自分でびっくりしました。

対戦なのでこちらが勝ちたい時は、当然ながら相手に負けてもらうしかないのですし、勝ちたい勝ちたいという一心がなければ善い対戦とはなりません。相手が負ければいいと念じたとしてもいいではないかと思うのです。

しかし、わが身に感じた打撃は思いがけないもので、決して小さくはありませんでした。私は何かとてつもないものに直面したようでした。

自分の得点は即ち相手の失点であり、相手の得点はそのまま自分の失点であること。私の得点の為には必ず誰かの失点を必要とすること。これは、スポーツ競技やゲームの話だけではなく、もしかしたら私たちの人生そのものではないかと思いました。優位を競い合うこと、優劣を争うこと、考えてみれば生まれてからずっと此の方、私たちは一体どれほどの優位競争を経てきていることでしょうか。赤ちゃんの健康優良児日本一という人もいることでしょうか。虫歯のない子として表彰されたことはありませんか。そして幼稚園のいわゆるお受験から始まる入学試験、就職試験、更には昇進、出世、・・・種々の資格試験、すべては、あなたではなく私 或いは、私ではなくあなたが、「得点」する仕組みなのです。人生の殆どは、人とこうして競い合う中に織り成されていると云っても言い過ぎではないのかもしれませんが。

考えてみれば、これは極く当たり前のことです。人の世界のあらゆる進歩、発展は、互いの競い合うことを或る原動力としているのだといえるのです。

芸術の分野は一見こうした互いの得点、失点に無関係のようにみえますが、

それでも、さまざまなコンクール、オーディションなどがあり、むしろそれ等あってこそ新しい躍進が約束されるのだとも思えます。

優位を競うという方向自体が、人が生きるということであるのかもしれませんが。

この順路に逆らって歩む世界とは何なのでしょう。その必要を今、強く感じているが、それは逃避というのでしょうか。敗北というのでしょうか。自滅というのでしょうか。

遠い昔々のこと、小学校の運動会で「赤勝て！白勝て！」と一斉に声を張り上げたことを覚えています。開会式の直後だったのでしょう。互いに対戦相手と声援の交換をしたのでしょう。気持ちは分るというものの、良く考えてみれば、何という苦渋に満ちた矛盾でしょうか。

「単純な弱肉強食で治まっていれば良かったのに、人間なんかやっちゃうからそうやって悩むことになるんだね。」とは親しい友人の謂いです。

「白鵬負けろ！」がもたらしたわが身への打撃は、ヒリヒリと果てのない痛みとなって、心の奥底に激しい哀しみを波立たせています。

もしかして、全ては、あの日私が神さまに背いて食べた、あの木の実ゆえなののでしょうか。

たとえ、そうであると知ったとしても、痛みと哀しみはここにあります。



# いのちの言葉 2月

もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。(ルカ14・26)

この言葉について、どうお考えになりますか。

耳にしたことのない、本当に徹底的な要求の言葉です。

といっても、これは、婚姻の不解消性を説かれ、すべての人への愛、特に両親への愛をお命じになった、イエスご自身の言葉です。ここでイエスは、地上でのあらゆる美しい愛情も、彼を直接愛する妨げになる場合には、第二の場所に置くよう、私たちに求めておられるのです。これほど多くをお求めになれるのは、神だけでしょう。

実際イエスは、皆が兄弟として生きる世界を築くため、人が何よりもご自分と結ばれていることをお望みです。このご計画を妨げるものがある時、イエスはそれを「断ち切られ」ます。福音ではこれが、霊的な意味での「剣」という言葉で表現されています。

イエスは、母や妻、自分の命以上にご自分を愛せなかった人々のことを、「死んだ者」と呼んでいます。イエスに従う前に、「父を葬りに行かせてください」と願った人のことを覚えていらっしゃいますか。イエスは、彼に向かって「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい」<sup>1</sup>とお答えになりました。

これほど大きな要求を前にして、私たちは、強い恐れを抱いたかもしれません。あるいは、このイエスの言葉を、彼の時代に限られたものだと考えたり、特別な形でイエスに従う人々に向けられたものだと思ったりしたかもしれません。

でも、そうではないのです。このイエスの言葉は、現代も含め、あらゆる時代にあてはまるもの、私たちも含め、すべてのキリスト者に向けられたものなのです。

時とともに、キリストの招きを実践するための多くの機会が、私たちに訪れるでしょう。

たとえば家族の誰かが、キリスト教に反対するとしたら、どうしましょう。イエスは、私たちが嘲笑され、悪口を言われても、生活を通し、また機会があれば言葉によっても、証しすることを望んでおられます。

夫から中絶を勧められるとしたら？ 私たちは、人間にではなく、神に従わねばなりません。

兄弟から、いかがわしいグループや良くない仲間に誘われるなら？ そこから離れる必要があります。

親戚から不正なお金を受け取るよう勧められたら？ 私たちは、清廉(せいれん)さを保たねばなりません。

家族皆が、あなたを節度のない生活に巻き込もうとするなら？ 断ち切る必要があるでしょう。キリストがあなたから遠ざかってしまわないためです。

もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。

信仰のない家庭に育ったあなたが、キリストを信じるようになったため、家族との間で分裂が生じたら、どうしましょう。動揺しないでください。それは、福音を生きた結果なのです。愛する家族のため、心の苦しみを神に捧げてください。でも、譲歩しないことです。

あるいは、キリストが私たちを特別にご自分のもとに招かれ、父や母、婚約者を後にし

<sup>1</sup> ルカ 9・60

て、自分のすべてを捧げるよう、私たちにお求めになるなら？

私たちは選択しなければなりません。戦わない人には、勝利もありません。

**もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。**

「自分の命であろうとも」と、イエスは言われます。

もし、私たちが迫害の地において、イエスへの信仰を表明することで、命の危険に遭うとしたら？ 勇気を出しましょう。信仰は、それすらも要求する時があります。教会にとって、殉教者の時代は決して終わったわけではありません。

私たち一人ひとりが真のキリスト者となるために、人生の中で「キリスト」か「他のすべてのもの」かを、選ぶ時が来るでしょう。あなたにも、その時が訪れるでしょう。

恐れなくてください。命のことで恐れを抱かないことです。神のためにこの命を失う方が、永遠の真の命を失うよりもよいからです。

家族や親戚のことで、恐れなくてください。神は、彼らを愛しておられます。私たちが家族に先立って、まず神を選ぶなら、いつの日か、神は彼らのそばを通られ、愛に満ちた力強い言葉で、彼らを招かれるでしょう。そしてあなたは、彼らがあなたと共に、キリストの真の弟子となるよう、助けることでしょう。

キアラ・ルービック

\* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのちの言葉は、1978年10月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

私は、自分がイエス様に全面的に従う道に呼ばれているのを以前から感じていましたが、実際に家族を後にする時期が訪れました。ちょうどその時、突然父が病に倒れ、あと数ヶ月という診断を受けました。父の傍にいたいという思いとともに、イエス様の言葉が私の心に強く響きました。「父を葬った後で。あなたに従います」と言った人に、イエス様は「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい」とお答えになったのです。涙がこぼれましたが、私はイエス様にハイと答え、いつでも出発できますと言いました。でもイエス様が望まれたのは、私がハイと答えることだけであつたのが、後で分かりました。なぜなら私はもうしばらく家族とともに家に残れるようになったからです。私が出発を予定していた日、突然父の容態が悪化し、ごくわずかな苦しみの後で、とても安らかに天に召されました。母は私に「もう行ってもいいよ」と言ってくれました。母を残して出発するのは、私にとって決して易しいことではありませんでしたが、「神様のみ旨なら、神様は母に必要な恵みをきつと与えて下さる」と信じて、出発しました。しばらくしてから母は、私が家を離れて、神様に従う道を歩むことにより、一人の自分の娘を失ったというよりも、同じ道に従う多くの娘、百人の娘をいただいたと感じる、と私に言ってくれました。これはイエス様ご自身の働きだと思わずにはいられませんでした。

(N)

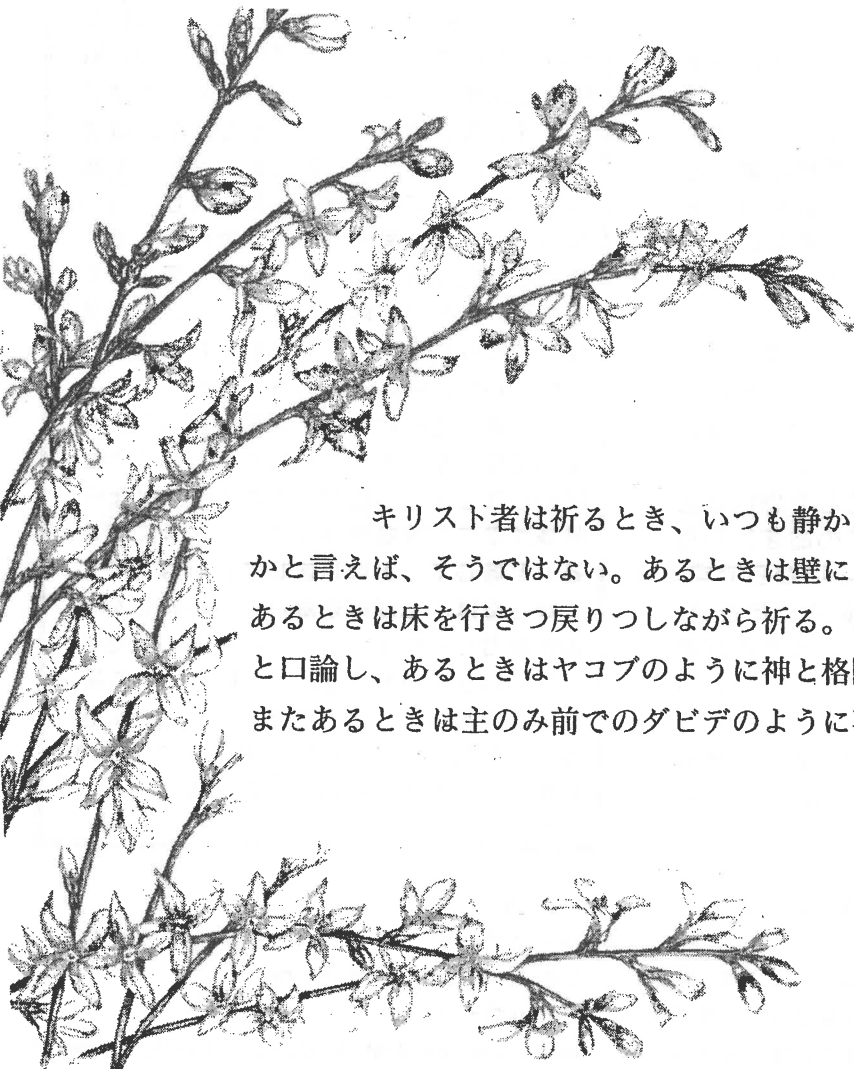
連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>



キリスト者は祈るとき、いつも静かに座って心を澄ましているかと言えば、そうではない。あるときは壁にこぶしを叩きつけながら、あるときは床を歩きつ戻りつしながら祈る。あるときはヨブのように神と口論し、あるときはヤコブのように神と格闘をして生涯残る傷を負い、またあるときは主のみ前でのダビデのように喜びに満ちて踊る。

◆クリフォード・ロングレイ



# カルメル会の企画案内





## カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：闇に光を

—現代社会に芽生える新しい神との出会い—

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）

世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会 (Tel. 03-3704-2171)

日時：下記の各日曜日 午後二時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

3月1日（日） 大瀬高司（カルメル修道会司祭）

「教会二千年余の歴史を鑑み

個々の人間と社会に本質と本来指向<sup>ひら</sup>を啓いてきた教会」

3月8日（日） 渡辺幹夫（カルメル修道会司祭）

第二ヴァチカン公会議「厚い黒雲の中にも、時のしるしを読み取る」

3月15日（日） 堤 邑江（カルメル在俗者会員）

「家庭と若者、生活問題の中での神との出会い」

3月22日（日） 中川博道（カルメル修道会司祭）

「わたしはこの目であなたの救いを見たからです

——高齢期を生きる光を探して——」

3月29日（日） チェレスティーノ・カヴァーニャ（東京教区司祭）

「日本の教会の新しさ」

上野毛霊性センター '09年3月~'10年3月黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

## 1. 一泊聖書深読(毎回土曜日 夕食~日曜日16時) 大瀬高司神父

- ③ 5月16日~17日  
 ④ 7月25日~26日  
 ⑤ 9月 5日~ 6日  
 ⑥ 11月28日~29日  
 ⑦ 2010/ 1月23日~24日

※①、②終了

## 2. 奉獻生活者のための黙想会

- A 8月10日(月) 夕食~ 8月19日(水) 朝 中川博道神父  
 B 8月22日(土) 夕食~ 8月31日(月) 朝 松田浩一神父  
 C 11月 9日(月) 夕食~11月18日(水) 朝 松田浩一神父  
 D 12月26日(土) 夕食~ '10/1月4日(月) 朝 中川博道神父

## 3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日10時~16時)

年間共通テーマ《祈りを深める》

- |             |             |        |
|-------------|-------------|--------|
| 3月12日       | 共に苦しむ神      | 中川博道神父 |
| 5月28日       | キリスト者の日々の祈り | 松田浩一神父 |
| 7月 9日       | イエスは祈られた    | 中川博道神父 |
| 9月10日       | 苦しみの中の祈り    | 今泉 健神父 |
| 11月26日      | ミサの祈り       | 今泉 健神父 |
| 2010/ 1月28日 | 主の祈り        | 松田浩一神父 |

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日10時~16時)

- |            |                  |         |
|------------|------------------|---------|
| 4月17日      | 御復活のラウレンシオ       | 中川博道神父  |
| 6月19日      | カルメル会の聖人達とイエスのみ心 | 松田浩一神父  |
| 10月 9日     | アピラの聖テレジア        | 今泉健神父   |
| 12月11日     | 十字架の聖ヨハネ         | ベルナルド神父 |
| 2010/2月12日 | 聖エリア             | 中川博道神父  |

5. 「社会人のための心の休息」 一日常のキリスト教霊性を求めて一

(毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時)

新しい企画

松田浩一神父

- ① 4月17日(金)～18日(土)
- ② 5月 8日(金)～ 9日(土)
- ③ 6月19日(金)～20日(土)
- ④ 9月11日(金)～12日(土)
- ⑤ 10月23日(金)～24日(土)
- ⑥ 11月 6日(金)～ 7日(土)
- ⑦ 2010/ 1月29日(金)～30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)～27日(土)

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6. 青年黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

5月29日(金)～31日(日) 17時受付

11月21日(土)～23日(月) 16時受付

7. 召命黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

7月4日(土)～ 5日(日) 15時受付

8. 祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】・・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

4月9日(木)～12日(日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

12月24日(木)～25日(金)《講話なし、夕食なし》

9. 特別黙想会 伊従信子NDV

5月22日(金) 20時～24日(日) 16時(22日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ:「聖霊を友に」

10月10日(土) 20時～12日(月) 16時(10日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ:「さらに固く信じさせてください」

10.待降節黙想会

12月4日(金) 20時～6日(日) 16時(4日は夕食を済ませてご参加ください)

指導：カルメル会士

11.四旬節黙想会

3月6日(金) 20時～8日(日) 16時(6日は夕食を済ませてご参加ください)

指導：今泉健神父

12.「カルメルの靈性に親しむ」黙想会

中川博道神父

3月19日(木) 夕食～21日(土)



幼いマリア像(聖テレジア修道院・黙想)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの  
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



# 「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

\*どなたでも いつからでもご参加ください\*

## 2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

了 1月20日	了 1月23日
了 2月17日	了 2月20日
3月17日	黙想会の為、3月の勉強会はございません 下記の案内をご覧ください
4月21日	4月24日
5月19日	5月22日
6月23日	6月26日
7月21日	7月24日

黙想会 日時:3月19日(木)20時(ミサ) ~ 3月21日(土)17時

対象:どなたでも 参加費用:12,000円

お申込みは 聖テレジア修道院(黙想)まで TEL 03-5706-7355 FAX03-3704-1764

<お問い合わせ : carmel-reisei@hotmail.co.jp>

東京

## 木曜 黙想会

一般黙想

2009年 3月12日

テーマ：「共に苦しむ神」

7月 9日

テーマ：「イエスは祈られた」

## 金曜 黙想会

カルメルの聖人

2009年 4月17日

テーマ：「御復活のラウレンシオ」

2010年 2月12日

テーマ：「聖エリア」

対象：どなたでも

時間：10時～16時

指導：中川博道師

費用：3,500円

場所：聖テレジア修道院（黙想）

お申込みは下記＜聖テレジア修道院（黙想）＞へ お願いいたします

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1764

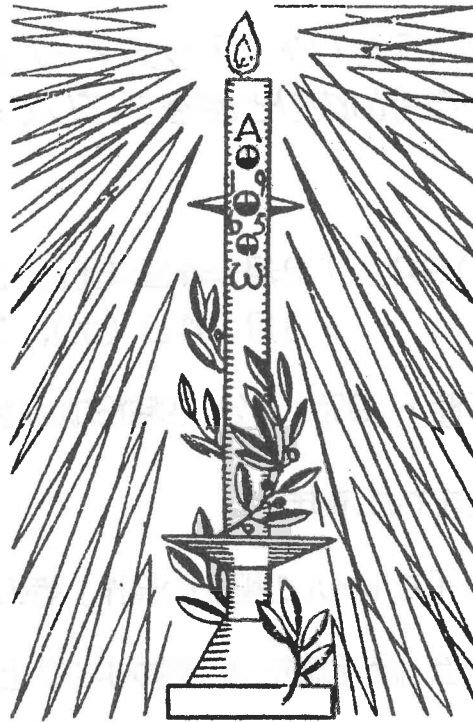


# 四旬節黙想会

テーマ

復活へのあこがれ

四旬節を有意義に過ごすために



四旬節を過ごすと言っても、実際に四旬節らしい生活をしなければ意味はありません。復活祭の喜びを本当に実感のある喜びとするために、有意義に四旬節を過ごす工夫をしてみませんか？

日時： 3月6日(金)20時～3月8日(日)16時 二泊三日

(6日は夕食を済ませてご参加ください)

場所： 上野毛聖テレジア修道院(黙想)

指導： 今泉 健 神父 (カルメル会)

# C.Y.C. (カルメル・ユース・クラブ)

## 若者の集い

カルメルの靈性 (スピリチュアリティ) の中で  
祈りと分かち合いのひと時をすごしてみませんか…

日 時 : 2009年 ~~2月14日(土)~~、2月28日(土)  
3月14日(土)、3月28日(土)

午後7時 ~ 9時15分 (9時からカルメル会士とともに「寝る前の祈り」)

対 象 : 35歳までの 青年男女

内 容 : 「聖書」「カルメルの聖人の著作」等の分かち合い、祈り。

場 所 : 上野毛教会 信徒会館ホール 東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分  
(世田谷区上野毛2-14-25)

※参加の申込みは不要です。お問合せに関しましては、下記までお願いいたします。

※カルメル会の各種ご案内は、ホームページにて。 <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/>



男子跣足カルメル修道会 上野毛修道院 (松田浩一神父)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

[E-mail] [tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

[Fax] 03-3704-1764 [Tel] 03-3704-2171

# 聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交  
わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、  
福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

- \* 日時：2009年5月16日（土）18時～17日（日）16時
- \* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家
- \* 指導：大瀬高司師（カルメル会司祭）
- \* 会費：¥7000
- \* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



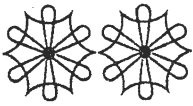
お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

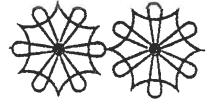
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



「聖週間、祭日のミサにあずかるために」



## 個人黙想ご案内

聖週間の典礼、復活の主日のミサにあずかるため、黙想の家で静修の一時をお過ごし  
になりませんか。

2009年4月 9日(木) 夕食～12日(日)朝食

- \* 講話は、ありません。各人のテーマによる黙想  
    チェック イン : 午後3時から入室可。  
    チェックアウト : 午前10時(復活の主日)
- \* 費用 : 1泊 ￥5000 (3食付・1泊から参加可)
- \* お問合せ、お申込み : **Tel.03-5706-7355** ・ **Fax.03-3704-1764**

上野毛・聖テレジア修道院(黙想)



## 2009年 聖週間 ご案内

4月 5日(日) 受難の主日(枝の主日)

4月 9(木) 聖木曜日(主の晩餐)

典礼 19:00～

4月10日(金) 聖金曜日(主の受難) 大斎、小斎

十字架の道行き15:00～

典礼 19:00～(十字架の崇敬と称賛)

4月11日(土) 聖土曜日

典礼 19:00～ 洗礼式



4月12日(日) 復活の主日

荘厳ミサ 10:30～ ミサ後祝会 ・ たまごの祝別(各ミサ後)

'09年3月～ '09年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)
-----------------------------------

\*\*宇治聖テレジア修道院 (黙想)\*\*

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

3月21日 (土) ～22日 (日)	渡辺幹夫神父
5月 9日 (土) ～10日 (日)	新井延和神父
7月 4日 (土) ～ 5日 (日)	九里彰神父
9月 5日 (土) ～ 6日 (日)	新井延和神父
11月14日 (土) ～15日 (日)	中川博道神父

1日 (午前10時から午後4時)

4月18日 (土)	渡辺幹夫神父
6月13日 (土)	新井延和神父
10月31日 (土)	九里彰神父
12月12日 (土)	新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

3月11日 赦しの秘跡	新井延和神父
4月22日 復活	渡辺幹夫神父
5月27日 聖霊	長岡幸一神父
6月30日 聖パウロ宣教師	九里彰神父
7月15日 カルメル山の聖母マリア	九里彰神父
9月23日 十字架の神秘	新井延和神父
10月14日 完徳の道	渡辺幹夫神父
11月 4日 聖なる冒険	Sr.パウリン
12月 9日 暗夜	九里彰神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

3月7日 (土) ～3月8日 (日)	九里彰神父
--------------------	-------

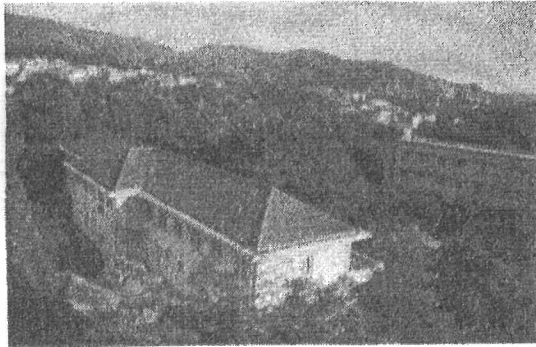
4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月5日 (土) ～6日 (日)	九里彰神父
-------------------	-------

5. 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日 (水) ～10月1日 (木)	伊従信子師
----------------------	-------

- 6.一般のための黙想（午後5時～午前9時） ※修道者も参加可  
4月29日（水）～ 5月2日（土） 渡辺幹夫神父
- 7.召命黙想会（午後4時～午後5時）対象：40歳以下の青年男女  
5月5日（火）～ 5月6日（水） 渡辺幹夫神父
- 8.奉獻生活者のための黙想（午後5時～午前9時）  
8月 2日（日）～8月11日（火） 渡辺幹夫神父  
8月18日（火）～8月27日（木） 九里彰神父  
10月17日（土）～10月26日（月） 九里彰神父  
12月26日（土）～1月4日（月） 新井延和神父
- 9.青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）  
11月8日（日） 九里彰神父



その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2009）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み” などなど一見“ネガティブ”（闇）と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはず。この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一日静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

第1回	10月31日(土)	イエス・キリストの辛い宣言	松田浩一神父 (上野毛修道院)
第2回	2月21日(土)	私は弱いときにこそ強いー弱さの中の光ー	中川博道神父 (上野毛修道院)
第3回	3月28日(土)	暗夜における信仰・希望・愛 十字架の聖ヨハネ	九里彰神父 (宇治修道院)
第4回	4月18日(土)	喜びを生きる	新井延和神父 (宇治修道院)
第5回	5月23日(土)	聖霊に満たされて生きる	今泉健神父 (上野毛修道院)
第6回	6月20日(土)	苦しみの中における喜びと平安 三位一体のエルサベツ	九里彰神父 (宇治修道院)
第7回	7月11日(土)	苦しみの中の祈り	今泉健神父 (上野毛修道院)
第8回	9月21日(月) 祝	幼いイエスの聖テレーズの悲しみ	新井延和神父 (宇治修道院)
第9回	10月17日(土)	アブリラの聖テレジアの靈性からの自由と希望	Sr.ベアトリス (宣教カルメル修道院)
第10回	11月28日(土)	暗夜に輝く神のみ言葉：恵まれた方、聖マリア	松田浩一神父 (上野毛修道院)

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \* 聖テレジア幼稚園隣接
- \* 参加費 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、コザリオ、弁当
- \* 定員 約30名
- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り・導入・黙想
  - 10:40～ 講話【1】
  - 12:00～ 昼食
  - 13:00～ 赦しの秘跡または短い面接
  - 13:30～ 講話【2】
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会
  - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へVカキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル靈性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825  
 一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子 TEL 052-701-3685

2009年度名古屋聖書深読会

第1回 5月16日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

第2回 10月 3日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

\* 参加費 ￥1000

\* 持ち物 聖書・ノート・筆記具・昼食等

\* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

\* 原則として、定員は21名とし、申し込みは、1週間前にFaxまたはハガキでお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

\* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキまたはFAXで、お願いします。

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685



## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

### 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

#### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

#### 2 ミニ深読

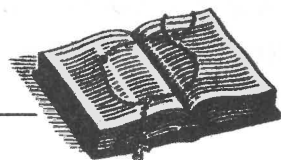
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

## カルメル会出版物のご案内

### 雑誌「カルメル」NO330 (2008年秋号)「今日の靈性」

- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (11) …高橋正行  
マリアの旅 (1) —マリアと共に聴く …中川博道  
十字架のヨハネ講話 (12) …フェデリコ・ルイス  
今日の歌 (1) …ペトロ・アロイジオ  
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (7) …伊従信子  
エディット・シュタイン「カルメル会への道程  
—ケルン・カルメル会に入りたいきさつ」(2) …須沢かおり  
「小さい道」の巡礼者 (2)  
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (22) …伊従信子  
ひとつの村が消える …森みさ  
愛の断章 (9) …奥村一郎

### 雑誌「カルメル」NO331 (2008年冬号)「今日の靈性」

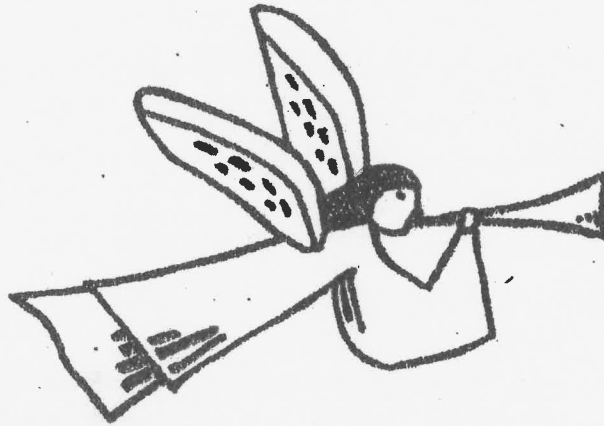
- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (12) …高橋正行  
マリアの旅 (2) —マリアと共に聴く …中川博道  
十字架のヨハネ講話 (13) …フェデリコ・ルイス  
今日の歌 (2) …ペトロ・アロイジオ  
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (8) …伊従信子  
エディット・シュタイン「カルメル会への道程  
—ケルン・カルメル会に入りたいきさつ」(3) …須沢かおり  
「小さい道」の巡礼者 (3)  
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (23) …伊従信子  
現代に生きる「預言者」のころ …谷口正子  
愛の断章 (10) …奥村一郎

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356)

# 諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバーキリスト教講座

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ



## 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観黙想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

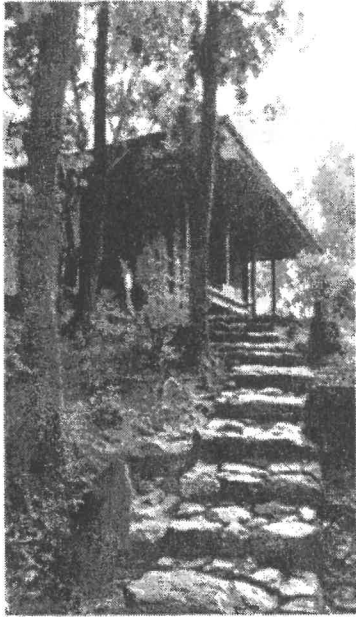
### ★ 2009年度 ★

了 了 了	<b>P1</b>	09・01・10 (土)	2時から	01・16 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	<b>K1</b>	09・01・28 (水)	2時から	02・03 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	<b>Y1</b>	09・02・18 (水)	2時から	02・24 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	<b>K2</b>	09・03・04 (水)	2時から	03・10 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	<b>P2</b>	09・03・21 (土)	2時から	03・27 (金)	2時から	兵庫・売布・女子ご受難会
	<b>F1</b>	09・04・25 (土)	2時から	05・01 (金)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	<b>I1</b>	09・05・08 (金)	2時から	05・14 (木)	10時まで	沖縄伊江島・土の宿
	<b>M1</b>	09・05・22 (金)	2時から	05・28 (木)	2時まで	盛岡・白百合
	<b>K3</b>	09・06・08 (月)	2時から	06・14 (日)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	<b>N1</b>	09・06・24 (水)	2時から	06・30 (火)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	<b>F2</b>	09・07・10 (金)	2時から	07・16 (木)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	<b>Y2</b>	09・07・22 (水)	2時から	07・28 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	<b>O1</b>	09・08・23 (日)	2時から	08・29 (土)	2時まで	長野・大鹿村・草々庵
	<b>P3</b>	09・09・12 (土)	2時から	09・18 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	<b>Y3</b>	09・10・07 (水)	2時から	10・13 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	<b>K4</b>	09・10・21 (水)	2時から	10・27 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	<b>N2</b>	09・11・02 (月)	2時から	11・08 (日)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
<b>F3</b>	09・11・16 (月)	2時から	11・22 (日)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家	
<b>P4</b>	09・11・28 (土)	2時から	12・04 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
<b>K5</b>	09・12・09 (水)	2時から	12・15 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	



# 2009年度祈りの集いのご案内

## 聖パウロの年



通年のテーマ：

聖パウロについて レクツィオ ディヴィーナ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

- 了 1月 8日 聖パウロの改心（使徒言行録9:1...）
- 了 2月 12日 聖パウロの宣教派遣（使徒言行録13:1...）
- 3月 12日 聖パウロの宣教における苦難（2コリント4:7...）
- 4月 23日 聖パウロのアテネにおける宣教（使徒言行録17:16...）
- 5月 14日 聖パウロのコリントにおける宣教（使徒言行録18:1...）
- 6月 11日 聖パウロの旅
- 7月 9日 キリストの使徒であるパウロ
- 9月 10日 聖パウロの書簡 1
- 10月 8日 聖パウロの書簡 2
- 11月 19日 聖パウロの逮捕（使徒言行録21:27...）
- 12月 10日 聖パウロの殉教

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）

園田 善昭神父

ダニエレ サルツィ・サルトリ神父

マリア デ・ジョウルジ シスター

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

## ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

## ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 下記の土曜日 9時30分～11時、また11時15分～12時45分、  
 岐部ホール4階404、2つの講座・セミナーでキリスト教関係の思想・哲学・  
 神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、  
 プログラム等に関してHP（文末）を見よ。

4月18日、25日、5月9日、16日、23日、30日

## ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分 木曜日 18時～20時30分  
 上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。3回坐り、間に講話があります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可

## ●接心（秋川神冥窟）

4月28日（火）20時30分～5月5日（火）13時  
一泊2400円程度 6月26日（金）20時30分～28日（日）13時  
 （宝塚市） 6月20日（土）13時～21日（日）16時

## ●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂  
 どなたでも。（但し、8月全休、祝日休）

## ●祈りの集い

下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 SJハウス第5会議室  
 黙想、講話、ミサがあります。3月14日、4月25日、5月23日、6月13日  
 ロザリオの祈り 同日16時10分～50分 Kultourハイム1階右小聖堂

## ●黙想

【会社帰りの黙想】 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
 聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。（但し祝日、8月11日は休）  
 8月25日は、上智大学 Kultourハイム聖堂。  
 12月25日（金）はクリスマスの黙想（予定）。

【お昼の黙想】毎月第1・3火曜日 10時45分～12時 聖イグナチオ教会

マリア聖堂、どなたでも。(但し8月全休、祝日休)

【水曜日】 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂、

どなたでも(但し、8月全休、祝日休)

【通う霊操】 8月22日(土)～30日(日) 18時～20時45分

上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●黙想会 6月6日(土)10時～7日(日)15時、9月12日(土)10時～13日(日)15時(東村山)

●アガペ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14～18時)。  
上智大学内SJハウス第5会議室、4月19日(日)、6月14日(日)

●クリスマス会 12月19日(土)16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時  
岐部ホール(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ 12月23日(水)14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

※詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認下さい。



問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)  
102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124{直通}、5111{伝言}、FAX 03-3238-5056  
[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/index.html](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html)



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2008年～2009年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

- 3/6 死—その実現と克服  
3/13 人生の完成—神の内に生きる  
3/27 聖母マリア—恵みのうちにイエスのために生きた方

## リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2008年～2009年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

### 各回のテーマ

- 3/3 教会の構造—その起源と機能  
3/17 信仰者の原型—聖書に見られるイエスの母  
3/31 人間と世界の完成—終末の約束

#### 《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール  
電 話 03-3263-4584

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

- ◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- 了 ① 08年12月27日(土)～09年1月4日(日)  
了 ② 09年2月20日(金)～2月28日(土)  
③ 7月23日(木)～7月31日(金)  
④ 9月1日(火)～9月9日(水)  
⑤ 10月17日(土)～10月25日(日)  
⑥ 12月27日(日)～10年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- 了 ⑦ 1月16日(金)～1月18日(日)  
了 ⑧ 2月6日(金)～2月8日(日)  
了 ⑨ 2月20日(金)～2月22日(日)  
⑩ 4月3日(金)～4月5日(日)  
⑪ 4月24日(金)～4月26日(日)  
⑫ 5月8日(金)～5月10日(日)  
⑬ 6月12日(金)～6月14日(日)  
⑭ 6月26日(金)～6月28日(日)  
⑮ 10月2日(金)～10月4日(日)  
⑯ 10月23日(金)～10月25日(日)  
⑰ 11月6日(金)～11月8日(日)

⑱ 12月 4日(金)～12月 6日(日)

⑲ 12月 11日(金)～12月 13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

C. 研修と祈り：【自己の成長と祈りへの道】

(20) 5月 19日(火)～5月 24日(日)

(21) 9月 29日(火)～10月 4日(日)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 講話 黙想

(22) 5月 27日(水)～6月 3日(水) 九里 彰 師 (加州会)

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・プロトニヤック (ミナール宣教師) 安井 昌子 (ノートルダム教育修道女)  
菊池 陽子 (ノートルダム教育修道女) 松本 佳子 (ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 15名です。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。  
問い合わせは、電話 または、E-メールを ご利用ください。



食堂より琵琶湖を望む

# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を  
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2009年3月21日(土)

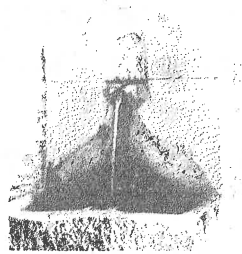
\* 次回の予定 2009年4月4日(土) \*

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時 ~ 午後5時30分位まで

講話・祈り・分かち合い

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

# 奥村一郎選集 (全9巻)

## 刊行完結

奥村一郎 Okumura Ichiro • カルメル会司祭  
 1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。



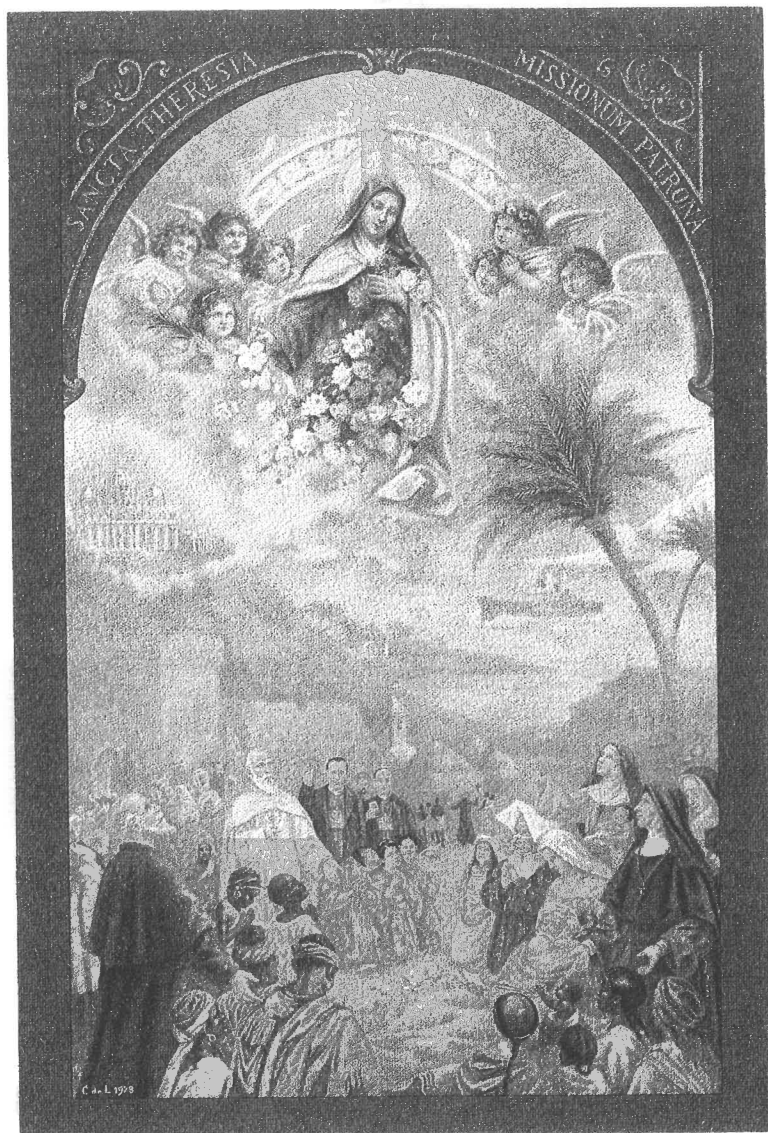
四旬節講話 (P 21) でも、ご紹介しています。

四六版・上製・平均240頁 各巻定価 2,100円 (オリエンス宗教研究所)

### 奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 慈悲と隣人愛 (解説) 西村恵信
- 第2巻 多文化に生きる宗教 (解説) 橋本裕日
- 第3巻 日本の神学を求めて (解説) 小野寺功
- 第4巻 日本語とキリスト教 (解説) 阿部仲麻呂
- 第5巻 現代人と宗教 (解説) 鶴岡賀雄
- 第6巻 永遠のいのち (解説) 八木誠一
- 第7巻 カルメルの霊性 (解説) 高園泰子
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉 (解説) 高橋重幸
- 第9巻 奉獻の道 (解説) 宮本久雄

記念御絵



\* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

A. 6cm×10.5cm (¥30)

B. ハガキ (¥100)

C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにて  
サイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

### 》投稿規程《

- \* 締切り：原則的に毎月10まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- \* 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)宛にお願いいたします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
  - ④ 連絡先等。
- \* 寄稿連絡は、九里<sup>くのり</sup> 彰神父宛にお願いいたします。i住所が変わります！  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院  
Tel (0774)32-7456 Fax (0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

**YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください！！**

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

## 『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

### 「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

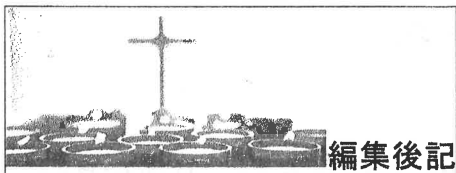
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

\* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



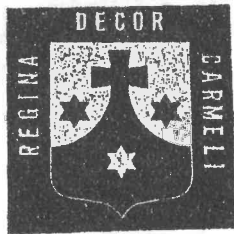
今年は2月25日が灰の水曜日にあたり、3月は四旬節の真ただ中となった。四旬節は、復活祭を迎える準備の季節として設けられている。主が肉体の死から復活の命へ過ぎ越して行く神秘の中に、私たちの洗礼の秘義も重なっている。罪の闇から解放され、光の子として誕生することは、私たちが肉の古い人に死に、靈の新しい人として生まれ変わることであろう。神に背を向けていた生き方から、神に従う生き方への徹底的回心が、今、私たちに求められている。

わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もしわたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。(ロマ6:4-5)

(P. 九里)







## あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「4月号」製本日

3月24日（火）

上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認ください。 霊性センター係

TEL 03・3704・2171